

音符は漢字音学習にどのくらい活かせるか

—カ・タ・ナ・ハ・マ行—¹

黒沢晶子（山形大学）
akuros9638@gmail.com

【要約】

本研究は、漢字音学習に音符がどのくらい活用できるのかについて、カガ・タダ・ナ・ハバ・マ行で始まる音符ごとに常用漢字の字音を網羅的に調査した結果の報告である。249の音符グループに804字の常用漢字を分類したが、そのうち音符字と同音の字は584字に及ぶ。中国語の頭子音が、より単純な音韻構造を持つ日本語に入って、有気無気などの違いが失われたり、中国語中古音の有声音が写された呉音でなく、その後無声化が進んだ長安音を反映した漢音を採ったため、日本語で同音になった字音も多い。本稿では、同音符同音の字を字音語のレベル別に導入する例を示した。一方、呉音を採るか、漢音を採るかによって、同じ音符グループの字にも清濁や鼻音・非鼻音の違いが生じた。そのほか、中国語上古音から中古音への変化が音符グループ内に複数の字音をもたらしたものもある。この複数の字音を持つ音符グループの字は、頭子音の調音点や母音など、異音間の共通点を活かして学習できるよう工夫していきたい。

1. はじめに：音符は字音学習にどう役立つか

「娛樂」が「こらく」「こうらく」「ごらく」のどれかで学習者が悩むとき、もし「誤解」を「ごかい」と知っていれば、「娛」と「誤」に共通する同形要素「呉」を通して、「娛」も「ご」と読むと類推することができる。この「呉」のように漢字の構成要素のうち音を表すのが音符である。

音符は字音学習にどのように役立つのだろうか。例えば、図1の「戸」「呉」「亢」は、その右側に記した漢字群に共通の音符として働いているが、同時に、字音「こ」と「ご」の違い（清濁）、「こ」と「こう」の違い（長短）を類推し、見分ける手立てとなる。

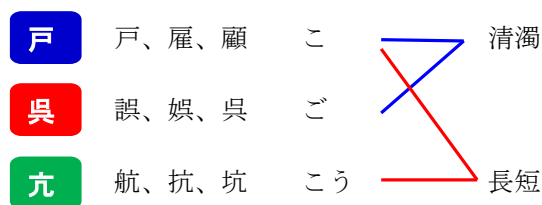


図1：音符は字音学習にどう役立つか

¹ 謝辞：本研究は科研費基盤（C）「漢字音の長音教材 開発—漢字音対照と音符を用いて—」（課題番号 17K02837 2017～2019年度）の助成を受けた。

もし「雇用」の読みを知っていれば、新たに「顧問」という語が出てきたとき、「こもん」と正しく類推することができ、「航空」がわかれば、「炭坑」の「坑」も「こう」と読めるだろう。音符を見つければ、それを共通項として形と音が結びつき、字音の類推・記憶に役立つ。その結果、清濁・長音などの識別がしやすくなるのが音符学習の効果として挙げられる。

では、このように音符が活用できる字は、どのくらいあるのだろうか。それを確認するために、音符ごとに常用漢字の字音を網羅的に調査した。本稿では、カガ・タダ・ナ・ハバ・マ行音で始まる字の調査結果を報告する。

2. 音符・字音調査

2.1 調査の手順

調査の範囲は、常用漢字音訓表に音読みがある 2059 字である。訓読みだけ（例：畑、箱）の 77 字を除く。まず、藤堂 (1980a)、白川 (2012)、山本 (2012) に基づき、2059 字のうち形声文字について、音符ごとに字と字音を整理する。分類は、基本となる音符を単位とし、派生的音符も基本的音符のグループに含むものとする。例えば、

古 固 個 (人+固)

のうち、「個」は「固」を派生的な音符とする字だが、「固」の音符である「古」を 3 字に共通の基本的音符として同じグループに含めている。また、同形要素を持っていても、六書が会意である字は除く。例えば、「酷」は「告」を音符とする形声文字であるのに対し、「造」は「告」をその構成要素として持つが、音符ではなく、意符のひとつとしてこの字を形作っている。

告 酷 (会意：造)

次に、日本語の字音「呉音」「漢音」「唐音」「慣用音」を藤堂 (2006) から取る。また、韻典網の『広韻』で中古音声母（頭子音）とその再構音を、『上古音系』で上古音声母とその擬音を検索する。中古音の再構音は、原則として王力のものを採った。日本語の基本的な字音である呉音、漢音は中国語の中古音（隋唐の音）を写したものだが、上古音を見るのは、3.3.4、3.3.5 で後述するように、ある音符グループの漢字音が中古音では説明できない場合に、その原因がしばしば上古音に求められるためである。

2.2 音符グループの字と同音率

2.1 の手順で、カガ・タダ・ナ・ハバ・マ行音で始まる音符字ごとに、それに属する常用漢字の音読字をグループ化したが、形声文字であっても常用漢字に 1 字しかないもの（例：満）や旧字体でない音符が見出しにくいもの（例：売－賣、仮－假）は音符学習には使いにくいいため、除外した。

ある音符を共有する字がすべて同音のものは、どのくらいあるのか。これは、

音符：中 漢字：中、仲、忠、沖、衷 字音：ちゅう

のような音符グループを指す。音符を単位に見ると、音符数 249 のうち、すべて同音のものは 117 で、47%である。一方、これを字を単位にして数えると、その音符と同音の字は、804 字中 584 字で、73%に及ぶ。日本語よりはるかに複雑な音韻構造を持つ中国語では、形声文字のうち音符と同音の字が 27%だという報告 (Pollastek et al. 2000:608) もある。それに比べれば、日本語の漢字音学習では音符がより効果的に活かせる可能性が高いことが示唆される。

2.3 日本語に入って同音となった字

実際に中国語から日本語に入ってきた段階で、いくつかの理由によって同音符同音となる字が増えている。例えば、「復」を音符とする「復・複・腹・覆」はすべて「ふく」と読むが、中古音では表1のように3種類の異なる声母（頭子音）を持っていた。

表1：「復：復・複・腹・覆」が同音となった理由

	字	中古音	呉音	漢音	同音になった理由
1	復	bīuk	ぶく	ふく	漢音
2	複	pīuk	ふく	ふく	日本語では有気無気の違いが表せないため
3	腹	pīuk	ふく	ふく	
4	覆	p ^h īuk	ふく	ふく	

1「復」は、中国語で元来有声音で始まる音だったが、その後唐代長安音では有声音の無声化が進む²。それを母胎音とする漢音では無声音で受け入れられたため、「ふく」となった。また、2「複」と3「腹」はともに無気音で始まり、4「覆」は有気音で始まる音だったが、日本語の音韻体系ではその違いを表すことができないため、いずれも「ふく」となった。こうして、3種類の異なる頭子音はすべて同じ音となり、日本語では同音の字音として定着したわけである。

別の原因としては慣用音の存在が挙げられる。湯沢（1987：84）は「慣用音」を「日本の漢字音のうち的一种。呉音・漢音・唐音以外の、古来よく用いられている音」と定義している³。慣用音が同音化の要因となったものの一例として、「犧」が挙げられる。「義」および「義」を音符とする「議・儀・犧」はすべて「ぎ」と読む。だが、表2に示すように、「犧」だけは中古音で有声音で始まる字ではなかった。それが日本語で「ぎ」と読まれるのは理屈に合わないため、慣用音と呼ばれている。このような慣用音が生まれたのは、「犧」の字音が「義・議・儀」の字音から誤って類推されたことによるのかもしれない。

表2：「義：議・義・儀・犧」が同音となった理由

	字	中古音	呉音	漢音	慣用音
1	議	ŋje	ぎ	ぎ	
2	義	ŋje	ぎ	ぎ	
3	儀	ŋje	ぎ	ぎ	
4	犧	xie	き	き	ぎ

類例に「験」がある。本来、呉音も漢音も「げん」となる字だが、「経験・試験・実験」など多くの語で「けん」と読まれるのは、共通の音符を持つ「検・険（呉漢音とも「けん）」や「剣・儉（漢音が「けん）」に引かれたからではないだろうか。

² 藤堂 1980：169、沼本 1986：19-21 参照

³ 何を慣用音とするかは、呉音や唐音認定に関する字典の方針（呉音や唐音を資料に現れたもののみとするか、それとも通則に従って認定するか）によって異なる場合があり、必ずしも一様ではない（湯沢 1987：103-109）。本稿では、原則として藤堂（2006）の分類に従った。

2. 4 音符とは何か

それでは、ここで改めて音符とは何かということに目を向けてみたい。紀元前8~7世紀に成立した『詩経』で互いに押韻できる字をまとめるのが音符だった。藤堂(1980a, 1980b)によれば、その頃、形声文字が数多く作られた。「罍(聖)」を音符として、それに意符を加えた「經・徑・莖…」などの字が生み出されていき、中国最古の部首別字書である『説文解字』(西暦100年頃)では、字形の成り立ちとともに音符に言及している。だが、『詩経』の押韻法はある程度大まかなものであり、例えば、an、æn、ian、uanなどが韻を踏んでいたという。

このように、元来、音符は「押韻できる音」の標識だったが、それは韻母(音節から頭子音を除いた部分)がほぼ同じということであり、声母(頭子音)は異なる場合が少なくなかった。それが日本語に入って、表1、表2の例のように同音で始まるものが増えたわけである。

3. 音符を活用する：どのレベルでどんな漢字を音符学習に取り入れることができるのか

3. 1 漢字音教材基礎資料の作成

上に見た例のように字音が1種類なら、漢字音学習はより容易になる。一方、異音があるなら、その学習も必要となる。つまり、音符学習には難易度があることになる。

漢字音学習は単漢字の音を覚えるのではなく、字音語の読みを覚えるという形で行われる。つまり、字音語の語彙レベルによって学習時期に差が出ると考えられる。そこで、各音符グループに属する字を含む字音語をコーパスから抽出し、高頻度語の語彙レベルを判定して、教材の基礎資料を作成した。

字音語の抽出には、コーパスとして『現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)』、検索エンジンとしてNINJAL-LWP for BCCWJ(以下NLB)を用いた。まず、NLBで目的の字の前に「*」を付けて中間一致検索をすると、その字を含む単語が頻度順に抽出される。例えば「*係」で絞り込むと「関係、係る、関係する、係…」のように字音語も字訓語も拾われるが、そのうち字音語だけを取り上げる。

次に、NLBで頻度上位の字音語について、その語彙レベルをjReadability(日本語文章難易度判別システム)で判定する。例えば、「系」を音符として持つ「係、系」では、表3のようになる。

表3：jReadabilityによる「系：係、系」を含む字音語の語彙レベル判定(語彙リスト)

基本形	読み	レベル	レベル
関係	カンケイ	3	中級前半
体系	タイケイ	4	中級後半
系統	ケイトウ	4	中級後半
系列	ケイレツ	5	上級前半

jReadabilityでは語彙レベルを6段階に分けているが、音符学習用には、それを次のように3段階に分けた。①に初級だけでなく、中級前半の語彙まで含めたのは、初級の字音語は音符学習の目的で抽出すると、非常に限られるためである。

表4：音符学習用の語彙レベルの分け方

段階	レベル	語彙レベル	語例
①	初中級	初級前半～中級前半	関係
②	中級	中級後半	体系、系統
③	上級	上級、判定なし	系列

以下、音符グループの字音が1種類だけのものと複数あるものに分け、レベル別に例を示す。

3. 2 字音が1種類だけの音符グループを字音語のレベルから見る

表5に音符グループに属する字の字音が1種類に限られる字の中で、①初中級から音符学習ができる字と字音語の例を示す。ここで初中級というのは、3. 1の手順で抽出した字音語がjReadabilityで語彙レベル中級前半までの字音語を持つ音符グループを指す。その中には、そのような字が①初中級に複数ある(例：字音ちょう、音符：長)か、①初中級および②中級(jReadabilityで中級後半)にまたがってあるもの(例：字音：きゅう、音符：及)が含まれる。③上級の語を持つ字があってもよいが、それは条件ではない(例：字音ちゅう、音符：中)。

表5：字音が1種類：①初中級から学べるもの

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
ちょう	長	長 張 帳			社長 出張 手帳		
きゅう	及	級	及 吸		初級	普及 呼吸	
かい (え)	会	会(かい) 絵(え)	会(え) 絵(かい)		会社 絵	会釈 絵画	
ちゅう	中	中	忠	仲 沖 衷	途中	忠告	仲介 沖積 折衷

表5の3番目の音符グループは「字音かい(え)、音符：会」だが、このグループの場合、①初中級の「会」は字音語「会社(かいしゃ)」、「絵」は字音語「絵(え)」であり、互いに異なる音で読まれるため、一見、音符が役立たないように見える。だが、同じ字の②中級の字音語には「会釈(えしゃく)」、「絵画(かいが)」が現れ、漢音「かい」と呉音「え」が「会」と「絵」に共有されていることがわかる。この音符は、②の段階になって①で学習した字音が意味を持つてくることになる。

次に、表6に音符グループに属する字の字音が1種類に限られる字の中で、②中級から音符学習ができる字と字音語の例を示す。一つ目の「字音：こ、音符：戸」や二つ目の「字音：ご、音符：呉」では、②の「雇」や「誤、娛」のほうが音符字である「戸」や「呉」よりも先に字音、字音語を学ぶことになる。このように音符となる字のほうが字音語のレベルが高いことは珍しいことではなく、音

符字は必ずしも先に学習するとは限らない。

表 6：字音が 1 種類：②中級から学べるもの

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
こ	戸		雇	戸 顧		雇用	戸籍 顧問
ご	呉		誤 娛	呉		誤解 娯楽	呉服
こう	亢		航 抗	坑		航空 抵抗	炭坑
こく	告		告	酷		報告	残酷

さらに、表 6 に音符グループに属する字の字音が 1 種類に限られる字の中で、③上級で音符学習ができる字と字音語の例を示す。これには、字音語が③レベルにしかない「字音：ちく、音符：畜」のような音符グループだけでなく、①の語彙を持つ字が 1 字あるが、②中級に同じ音符を持つ字がなく、グループの残りの字が③の語彙だけを持つものが含まれる。例えば、一つ目の「字音かい、音符：戒」は「機械」の「械」が①レベルだが、そこで学んだ字音「かい」を活かせる他の字には③レベルにならないと出会えない。

表 7：字音が 1 種類：③上級で学ぶもの

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
かい	戒	械		戒	機械		警戒
かい	皆	階		皆 諧 楷	階段		皆無 俳諧 楷書
ぐ	具	具		惧	道具		危惧
ちく	畜			蓄 畜			貯蓄 家畜

本節で例を挙げた、字音が 1 種類に限られる音符グループの字音は、その字音がどの字にも当てはまるため、最も学習の容易なものである。このタイプの音符とそれに属する常用漢字数を語のレベル別に見ると、①レベルの音符数は 44 で③レベルの 45 音符より少ないが、漢字数は 135 字で、③レベルの 108 字よりも多い。①レベルの音符当たりの漢字数は 3.1 字で②、③の 2.4 字より多く、音符学習の効果がより大きいことを示している。

3. 3 複数の字音を持つ音符グループ：原因は何か

3. 3. 1 音符に何種類の字音があるか

3.2 では、同じ音符グループの字の字音が 1 種類に限られる字例を見たが、音符グループの中には、異音を持つものもある。例えば、

加：加 架 か
 賀 が
 各：各 格 閣 かく
 落 絡 酪 らく

のようなものである。そこで、本節では、ひとつの音符に何種類の字音があるか、異音にはどのようなものがあるか、なぜ複数の字音があるのかを見ていきたい。

本稿で調査した範囲では、その音符グループの字音が 1 種類のもものが 117 で最も多く、次いで字音 2 種類のもものが 98、3 種類のもものが 23、4 種類以上が 11 であった。字音 1 種類のもものが半数近く、字音 2 種類までで全体の約 86%を占めている。一つの読みさえわかれば、残りすべてにその読みが使えるというほど単純ではないが、二つ目の字音と字の組み合わせまで覚えれば、大多数の漢字の字音が類推できることになる。

3.3.2 清濁

では、異音にどのようなものがあるか、そして、その異音がある理由は何かを見ていきたい。

表 8 は、字音が 2 種類ある音符で、音符字の字音とその異音とが清濁の対立を持つものを示している。その音符グループの字、および字音語のレベル別例も掲げた。例えば、「字音：か、音符：加」の字には「か：加、架」と「が：賀」があり、「字音：ど、音符：度」の字には「ど・と：度」と「たく：度」「と：渡」がある。表中、赤字が音符字の字音と異なるものを指す。

表 8：字音が 2 種類ある音符：清濁

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
か	加	加	架	賀	参加	架空	年賀状
ど	度	度		渡	今度		渡航
ほう	奉	棒		奉 俸	泥棒		奉仕 年俸
ほう	方	方	訪	芳	方法	訪問	芳香
		放	防	倣	放送	予防	模倣
		房	肪	妨	冷房	脂肪	妨害
		坊		傍	赤ん坊		傍観
							混紡

「音符：度」の字を例に、「ど」と「たく」「と」のように清濁を異にする字音がある理由を考えてみたい。表 9 は、「度」と「渡」の中古音と呉音、漢音を示している。表中、青字は常用漢字音が呉音であるもの、赤字はそれが漢音であるものを示す。

表9：音符 度 清濁の2種類の字音がある理由

	字	拼音	中古音	呉音	漢音
1	度1	du 4	du	ど	と
2	度2	duo 2	dak	だく	たく
3	渡	du 4	du	ど	と

音符「度」の字は、中古音ではいずれも有声音 /d/ で始まる音だった。それを反映し、「度1」は「温度・今度・程度」のように多くの語を呉音「ど」で読む。有聲の頭子音が無声化した唐代長安音を反映する漢音では「と（例：法度）」と読む。これに対して「度2」では漢音の「たく（例：支度・村度）」、「渡」でも漢音の「と（例：渡航）」が専ら使われている。この字のように日本語音が呉音、漢音のどちらであるかによって清濁の違いが生じている例は多く、「奉」が清濁2種類の字音「ぶ・ほう」を持つのもその理由による。

それ以外には、中国語の中古音で無声音（有気音、無気音）で始まるものと有声音で始まるものがあり、無声音を反映して清音、有声音を反映して濁音になっている場合がある。表8の音符「加」の字には「か」と「が」の音がある。中古音では、「加・架」が頭子音が無声音の /ka/ で、「賀」が頭子音が有声音の /ɣa/ である。それを反映して「加・架」は「か（漢音）」、「賀」は「が（呉音）」の字音が定着した。また、「方」の字には「ほう」と「ぼう」の音があるが、「方・放・訪・芳・傲」は本来無声音で始まる字で、日本語で「ほう」と読む。一方、「防・房・坊・傍・肪」の各字の中古音は有声音で始まり、日本語ではそれを反映する呉音を採り、「ぼう」と読んでいる。そして、「妨・紡」は本来無声音始まりであるにも関わらず、慣用音で「ぼう」と読むようになったものである。

なお、参考まで、表9に現代中国語音を拼音で示した。国際音声記号では有声音を表す d だが、拼音の d は無声無気音であり、有聲無聲の別を残す日本語音とは、言うまでもなく対応していない。

3. 3. 3 鼻音・非鼻音

次に、表10に字音が2種類ある音符で、字音が鼻音 m と非鼻音 b の対立を持つものを示す。表中、黒字が鼻音 m、赤字が非鼻音 b で始まる字音を持つ。例えば、「音符：門」の字は「問・門」が「もん」、
「聞」が「新聞」の「ぶん」と「前代未聞」の「もん」を常用漢字の字音として持つ。「音符：亡」の字には字音「ぼう：亡・望・忙・忘」と「もう：亡・妄・盲・網」があり、「音符：無」には字音「む：無」と「ぶ：無・舞」がある。

「音符：門」の字音に m と b の二つがあるのも、鼻音 m で始まっていたのが唐代長安音で多く非鼻音化し、漢音がそれを反映するためである。ただし、/ -n/ 型、/ -ŋ/ 型の韻尾を持つ字には、その影響で鼻音化が遅れて漢音でもマ行音のままのものがあるという（藤堂 1980a:277、沼本 1986:19）。表11に常用漢字の字音がマ行音で始まるものを青字、バ行音で始まるものを赤字で示す。「聞」は「ぶん」が漢音、「もん」が呉音である。「音符：亡」「音符：無」の字でバ行音で始まるのも漢音である。清濁同様、中国語で起きた変化が日本語の漢音に写されたことが、同じ音符の字、あるいは同じ字に2種類の字音がある原因となっている。一方、「門」「盲」は、漢音でも鼻音を維持し、かつそれが使われている例である。

表 10：字音が 2 種類ある音符：鼻音 m と非鼻音 b

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
もん	門	問			問題		前代未聞
		聞			新聞		
		門			専門		
ぼう	亡	望	亡	忘	希望	死亡	本望 亡者
			忙	妄		多忙	忘年会
				盲			妄想 盲目
				網			網羅
む	無	無			無理		
		舞			無事		
					歌舞伎	舞台	

表 11：音符 門 鼻音・非鼻音の 2 種類の字音がある理由

字	拼音	中古音	呉音	漢音
1 問	wèn	mǐuən	もん	ぶん
2 聞	wén	mǐuən	もん	ぶん
3 門	mén	muən	もん	もん

3. 3. 4 入声・非入声

中古音声母（頭子音）の有声無声・鼻音非鼻音と違い、中古音韻尾（音節末子音）に違いのある音符グループもある。例えば、音符「冫」を持つ字には「副・福・幅（ふく）」と「富（ふ）」のように、日本語で言うと 2 拍目にその違いが反映される（表 12）。2 拍目の音は「冫」なら「く」、「必」「列」なら「つ」で、中古音の入声韻尾 -k、-t が日本語の音韻構造に合う開音節で定着したものである。その入声韻尾が中古音ですでになくなっていくのが「富」（表 13）や「秘」「例」である。赤字で示したのが非入声の字音を持つ字（富：ふ、秘：ひ、例：れい）である。

表 12：字音が 2 種類ある音符：入声・非入声

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
ふく	冫		副	幅		副詞	増幅
			福	富		幸福	豊富
ひつ	必	必		泌	必要		分泌
		秘			秘密		
れつ	列	例		裂	例		分裂
		列		烈	列		強烈

中古音を見ても、それを写した日本語音を見ても、なぜ同じ音符を持つ字にこのような違いがあるのかはわからない。表 13 は、その理由が上古音に求められることを示している。以下、上古音の再構

音には * を付す。

表 13：音符 畱 入声・非入声の 2 種類の字音がある理由

字	上古音	中古音	呉音	漢音
1 富	*pu ^g s	pǐəu	ふ	ふ
2 副	*p ^h u ^g	p ^h iuk	ふく	ふく
3 福	*pu ^g	pǐuk	ふく	ふく
4 幅	*pu ^g	pǐuk	ふく	ふく

1 の「富」は上古音が */-gs/ で終わるのに対して、2～4 「副・福・幅」は上古音が */-g/ で終わっている。中古音では音節末の */-gs/ が脱落し、「富」は韻尾を失ったが、韻尾 /-g/ の後に /-s/ のない 2～4 の韻尾は残り、韻が分化した⁴。それが日本語に入って「ふ」と「ふく」として定着した。1～4 の字が共通の音符を持ち、詩経の時代には押韻していたことは、このように説明される。

3. 3. 5 非ラ行音・ラ行音で始まるもの

「音符 各：各 格 閣 (かく)、落 絡 酪 (らく)」のように、一部カ行音・一部ラ行音で始まる字音を持つ音符グループがある。表 14 にその例を示す。表中の「音符 果：果 課 菓 (か)、裸 (ら)」や「音符 監：鑑 監 艦 (かん)、藍 濫 (らん)」のほか、「音符 兼：兼 嫌 謙 (けん)、廉 (れん)」などもこの類である。赤字がラ行音始まりの字を示す。

表 14：字音が 2～4 種類ある音符：頭子音の違い (カ行音・ラ行音)

字音	音符	①	②	③	語例①	語例②	語例③
か	果	果 課 菓		裸	結果 課長 菓子		裸体
かん	監	鑑	監	艦 藍 濫	印鑑	監督	艦隊 伽藍 汜濫
かく	各	各 格 客 額 路 ⁵ 絡	落 酪	閣 酪 露 酪	各地 合格 客 金額 道路 連絡	段落 省略	内閣 酪農 露出 賄賂

⁴ Karlgren (1932, 1934) は、/-k//-t/などで終わる「副・必・列」などの一般の入声と「富・秘・例」などの古入声の違いを説明するために、古入声の韻尾が */-g/、*/-d/ などの「有声の内破音」であったろうという仮説を立てた (藤堂 1980a:297)。これに対し、音節末に有声閉鎖音が来るのは類型論的に見てありそうもないこととする Baxter (1992 : 5.5, 5.8) は、*/-g/ の代わりに */-k/ を復元するが、この */-k/ は初期の中国語にあった後韻尾 */-s/ と */-ʔ/ の前で失われたという仮説を採っている。本稿では、『韻典網』の上古音擬音 (鄭張尚芳 2003『上古音系』を修正したもの) を用いた。表 13 のように、韻尾として */-g/ を、その後韻尾として */-s/ を持つ形が採られている。

⁵ 「路・露・酪 (ろ)」は、3.3.4 で取り上げた非入声の字と同じ理由で韻尾が失われている。

表 15 は、ここのような頭子音の対応を持つ形声文字を上古音から中古音への変化によって説明する複数の説を対照したものである。Karlgren を代表とする複数の研究者は、二重声母の仮説で説明しようとした（藤堂 1980a : 345）。Karlgren (1933) は、監（カン）と藍（ラン）のような字に、シナ・チベット諸語のひとつ、古代タイ語との対応から、上古音の頭子音に子音結合があったと推定し、kl-と gl-という二重声母の片方が脱落（①グループからは l、②グループからは g）して中古音の k- と l- になったと考えた（西田 1958: 143-145）。これに対し、Maspero (1935) は上古音には *l が共通していたが、①グループは声母 *k を残し、介音 *l が脱落したと説明した⁶。さらに、中古音 l は多くの場合、タイ祖語を共有する多くの言語で頭子音+*r との音結合群に相当することから、Baxter (1992) は、上古音の *l を*r に置き換える説を支持している。（また、その *r を声母ではなく介音としている。）いずれの説も、上古音には何らかの形で音節冒頭に子音が二つあったが、その一方が脱落した結果、中古音の違いとなったと説明する点で共通している。

表 15 : 上古音の復元

例	上古音 紀元前 6 世紀			中古音 7 世紀初頭	日本語
	Karlgren (1933/1958)	Maspero (1935/2009)	Baxter (1992/2014)		
① 各 格 閣	*kl-	*kl-	*kr-	k-	カ行音
② 落 絡 酪	*gl-	*l-	*gr-	l-	ラ行音

3. 3. 6 異音がある理由 まとめ

以上、3.3 では、現代日本語の音符グループの中に二つ以上の字音を持つものがあるのはなぜか見てきた。それを異音のタイプごとにまとめると、まず、清濁、鼻音非鼻音のように、中国語内の変化が日本語の呉音漢音に反映されたものが挙げられる。

・清濁（例：度 渡）：中古音で声母（頭子音）が有声音だったグループは呉音で濁音始まりとなったが、その後、長安音で有声音が失われ、それを反映した漢音では清音となった。現代日本語で呉音をとれば濁音、漢音をとれば清音となる。なお、日本語には、「台（だい・たい）」「行（ぎょう・こう）」「白（びやく・はく）」「分（ぶん・ふん）」のように、呉音も漢音も生きている字もある。

・鼻音・非鼻音（例：問 聞）：中古音で鼻音 m で始まるグループは呉音でマ行音となった。その後、非鼻音化した長安音が漢音に反映され、多くバ行音となった。このような字は、現代日本語で呉音をとればマ行音、漢音をとればバ行音となる。これにも、「無（む・ぶ）」「聞（もん・ぶん）」「米（まい・べい）」「武（む・ぶ）」のように、呉音と漢音がともに使われている字が存在する。

中国語内の変化が日本語の呉音漢音に反映されたのがこの二つの例であるが、一方では、漢音が使

⁶ 音符の中には、中古音の声母が k と l で始まるだけでなく、「音符：寥 lieu（日：りょう）」のように「謬 miəu（日：びゅう）」「膠 kau（日：こう）」（再構音：王力）など、三つ以上の字音を持つ例があることから、Maspero (1935) は上古音に雑多な二重声母を個別に認めることによる煩雑さを避け、各字音をつなぐのは l であり、「謬 *ml-」「膠 *kl-」などにおける *l の先行要素は考慮しないとした。

われるようになったため清濁の区別が失われ同音になった「復・複」のような例もあり (2.3 参照)、こうした変化は日本語の音符グループにとって、同音化・異音化、双方向への要因となったと考えられる。

次に、音符グループに異音を生じた原因が中国語の上古音から中古音への変化に求められるものがある。

・入声・非入声 (例：福 富)：上古音で韻尾が $-g$ だった「福」などの字は、中古音でも入声韻尾を維持し、日本語では「〜く」で終わる字音として定着した。一方、上古音で $-gs$ のような韻尾を持っていた「富」などの字は、中古音でその韻尾が脱落したと推定され、日本語もそれを反映して「ふ」となった。

・非ラ行音・ラ行音 (例：各 落)：上古音で声母が $kl-$ (または $kr-$) だった「各」などの字は、中古音で l (または r) が脱落して声母 $k-$ となった。一方、上古音で声母が $gl-$ (または $l-$ 、 $gr-$) だった「落」は中古音で声母 $-l$ となった。中古音を写した日本語では、それぞれカ行音、ラ行音で始まる字音として受け入れられた。

日本語の字音が基礎を置くのは中古音だが、その中古音やそれ以降の変化では説明できないものがあり、上古音を推定することによって解明しようとするのがこれらの例である。

4 今後の課題：異音の共通点を活かす

3. 2で見たように、字音がひとつだけの音符グループは語彙レベル別に導入しやすいものから取り上げることによって、音符の学習効果を上げることができよう。では、3.3で挙げた、2種類以上の字音を持つ音符グループは、どのように扱えばよいのだろうか。

完全な同音ではないものの、同じ音符グループの字には、何らかの共通点が残っていることが多い。例えば、次の各グループの字は、①母音、②頭子音の調音点を共通項として持っている。

加・賀 (か・が)、度・渡 (ど・と)、無・舞 (む・ぶ)

また、次のように、①母音+2拍目の音、②頭子音の調音点を共有するグループもある。

方・防 (ほう・ぼう)、同・筒 (どう・とう)、代・貸 (だい・たい)

そのほか、①母音+2拍目の音が同じもの：

各・落 (かく・らく)、兼・廉 (けん・れん)、毎・海 (まい・かい)

さらに①2拍目の音と②頭子音の調音点と同じものもある。

門・聞 (もん・ぶん)

このような異音同士の共通点を活かして学習できるのではないだろうか。

今後は、まず、残されたア・サザ・ヤ・ラ・ワ行音で始まる字の音符・字音調査をすること、次に、語彙レベルに注目した音符教材を拡充すること、さらに異音の学び方に工夫を施すことを計画している。

参考文献

黒沢晶子(2011)「中国語母語話者と入声音ー『循環型社会をジゲンシ』とは?ー」『日本語教育連絡会議論文集』vol.23, 137-145.

黒沢晶子(2013)「漢字音教材開発ー入声音を含む漢語の音変化をどう扱うかー」『日本語教育方法研究会誌』20-1.

- 黒沢晶子(2015)「漢字音教材開発－音符の活用－」『日本語教育方法研究会誌』22-1.
- 黒沢晶子(2016)「漢字音の長音教材－中国語母語話者と非母語話者を対象に」『日本語教育連絡会議論文集』vol.29, 147-157.
- 黒沢晶子(2017)「漢字音の清濁を何から見分けるか」『日本語教育連絡会議論文集』vol.30, 103-117.
- カールグレン著、大原信一・辻井哲雄・相浦泉・西田龍雄訳(1958)『中国の言語 その特質と歴史について』江南書院
- 佐藤進(2011)「日本語における音読みについて」『日本語学』30-3: 4-17.
- 藤堂明保(1957/1980a)『中国語音韻論－その歴史的研究』光生館
- 藤堂明保(1980b)「中国の文字とことば」藤堂明保編『学研漢和大字典』学習研究社
- 沼本克明(1986)『日本漢字音の歴史』東京堂出版
- 西田龍雄(1958)「Bernhard Karlgren の業績と漢語学」カールグレン(1958)所収
- 湯沢質幸(1987)「漢字の慣用音」佐藤喜代治編『漢字講座 第3巻(漢字と日本語)』明治書院
- Baxter, William H. (1992) *A Handbook of Old Chinese Phonology*. Walter de Gruyter, Inc.
(バクスター ウィリアム H. 著、田中孝顕訳(2014)『古代中国語音韻学ハンドブック』きこ書房.)
- Maspero, Henri 著、千葉謙悟訳(2009)「マスペロ 上古 中国語の接頭辞と派生」『早稲田大学高等研究所紀要』(1) 103-114.
- Pollatsek, Alexander, Li Hai Tan, and Keith Rayner (2000) The Role of Phonological Codes in Integrating Information Across Saccadic eye Movements in Chinese Character Identification. *Journal of Experimental Psychology: Human Perception and Performance*. Vol.26, No.2, 607-633.

参考資料

韻典網 /<http://ytenx.org/kyonh/>

『広韻』『中原音韻』等の韻書の検索ができる。声母、韻母の再構音一覧を付す。『広韻』のデータは、『宋本 広韻データ』に基づいている。

鎌田正・米山寅太郎(2012)『新漢語林 第二版』大修館書店

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) 下記「中納言」サイトより選択して検索
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/>

白川静(2012)『常用字解 第二版』平凡社

宋本広韻データ<<http://kanji-database.sourceforge.net/dict/sbgy/index.html>>

科研費 基盤研究C「次世代古典文献データベース 構築の基礎的研究」(平成14～16年度、課題番号: 14510494、研究代表者: 村越貴代美)による成果の一

藤堂明保編(2006)『漢字源』学研

山本康喬(2012)『新しい漢字学習法 漢字音符字典 増補改訂版』東京堂出版

jReadability (日本語文章難易度判別システム)

<https://jreadability.net/index.html/>

NINJAL-LWP for BCCWJ (NLB)

<http://nlb.ninjal.ac.jp/>